



第697回

定期演奏会

準・メルクルの「ダフニスとクロエ」
バレエ音楽の世界へII



ピアノ：
アレクサンドラ・ドヴガン*
Piano: Alexandra Dovgan*
©Irina Schymchak

合唱：
京響コーラス
(合唱指揮：浅井 隆仁)
Chorus:
Kyoto Symphony Chorus*
(Chorus Master: Takahito Asai)

指揮：
準・メルクル
Conductor: Jun Märkl
©Tey Tat Keng

京都市交響楽団

The 697th Subscription Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra

2025
2/15 午後2時30分開演
(午後1時30分開場)
Sat, February 15, 2025 / 2:30PM

助成：
文化庁
Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan
文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動))
独立行政法人日本芸術文化振興会

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*
ラヴェル：バレエ音楽「ダフニスとクロエ」全曲*
Rachmaninov: Rhapsody on a theme by Paganini op.43*
Ravel: Daphnis et Chloé, ballet*

京都コンサートホール Kyoto Concert Hall
京都市営地下鉄烏丸線「北山」駅下車、出口1・3番から南へ徒歩約5分

開演前
は指揮者による
「プレトーク」で
お楽しみください。
午後2時ごろから
「プレトーク」はホール・ステージ上
にて開催します。

2024
12/27
から発売

入場料 | ⑤5,500円 ④5,000円 ③4,000円 ②3,000円 U22 (当日残席がある場合のみ発売) ②2,000円 ①1,500円 ①1,000円

※U22は22歳以下のお客様が対象です。開演1時間前から発売(当日券売場にてお買い求めください)。電話や窓口での事前予約はできません。席種は選べますが、座席指定はできません。ご購入及びご入場の際には年齢の確認できる証明書をご提示ください。

チケット
ご予約
●京都コンサートホール (075) 711-3231 ●ロームシアター京都 (075) 746-3201
●24時間オンラインチケット購入 <https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>
●チケットぴあ <https://t.pia.jp/> Pコード 252-735
●ローションチケット <https://l-tike.com/> Lコード 55810

お問い合わせ
京都市交響楽団 (075) 222-0347 <https://www.kyoto-symphony.jp/>
京都コンサートホール (075) 711-3231 <https://www.kyotoconcerthall.org/>
©未就学のお子様のご入場はお断りいたします。
©都合により曲目、出演者等が変更となる場合がございます。



◆1歳以上未就学のお子様は「託児ルーム」(有料・要予約・定員10名)をご利用ください。(お子様お1人につき1,000円/2025年2月7日までに京響075-222-0347へお申し込みください)
◆10枚以上のチケットお申し込みには団体割引(10%OFF)があります。京響(075-222-0347)までお問い合わせください。
◆障がいのある方ご本人及び介助の方1名に限り1割引いたします。京都コンサートホール・ロームシアター京都のみで取扱います(窓口で手帳等の証明書をご提示ください)。



主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市 協賛：ローム株式会社 協力：株式会社ドルチェ楽器 後援：(株)エフエム京都
発行：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。



The 697th Subscription Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra

ラヴェルの「ダフニスとクロエ」はバレエのために書かれた音楽です。有名なプロデューサー、セルゲイ・ディアギレフからの依頼でした。当時まだ若手作曲家であったラヴェルは喜んでこの依頼を受けましたが、予定の1910年には完成ができず、ようやく1912年に初演を迎えることができました。ですが、たった2日間で上演は終了。というのもドビュッシー作曲の「牧神の午後への前奏曲」がバリでスキャンダラスに上演され注目が集まったからだそうです。ラヴェルは、バレエ初演の前年に第1場と第2場から抜粋で組曲第1番、第3場から抜粋で組曲第2番を1913年に出版しました。当時はあまり良い評価を得られなかったようですが、時が過ぎ、組曲第2番は現代のオーケストラになくはならないレパートリーの一つとしてよく取り上げられるようになりました。今回は組曲ではなく、全曲のバレエ・バージョンを京響コーラス入りでお聴きいただきます。準・メルクルのエレガントな指揮でお楽しみください。そして、ピアノのアレクサンドラ・ドヴガンは京響とは2回目の共演です。ドヴガンお得意の中の一曲、ラフマニノフの「バガニーニの主題による狂詩曲」もお聴き逃しなく！

指揮 ◆ 準・メルクル

ミュンヘンで生まれ、ハノーファー音楽院でヴァイオリン、ピアノ、指揮を学ぶ。チェリビダッケ、マイヤーに師事。86年にドイツ音楽評議会の指揮者コンクールで優勝、その翌年にボストン交響楽団の奨学金を得てタングルウッド音楽祭に参加し、パースタイン、小澤征爾に学ぶ。これまでにザールラント州立劇場、マンハイム国立劇場、リヨン管弦楽団の音楽監督、MDRライプツィヒ放送交響楽団、バスク国立管弦楽団の首席指揮者を歴任。2021年シーズンから、台湾フィルハーモニック(国家交響楽団NSO)の芸術顧問(22年シーズンより第6代音楽監督に就任)、ハーグ・レジデンティ管弦楽団の首席客演指揮者、インディアナポリス交響楽団の芸術顧問、オレゴン交響楽団の首席客演指揮者に就任している。ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場などオペラでの華々しい活躍と同時に、クリーブランド管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団など世界的なオーケストラとの共演を重ねている。1997年にNHK交響楽団を指揮して日本にデビュー以後、ウィーン国立歌劇場、リヨン管弦楽団などとの来日公演や、新国立劇場、二期会、PMF、水戸室内管、読売日響、大阪フィル、京響、都響をはじめとした数々の公演で抜群の知名度を誇っている。レコーディング活動も活発で、NHK交響楽団、リヨン管弦楽団、MDRライプツィヒ放送響などとすでに50タイトル以上のCDをリリースしている。2012年フランス芸術文化勲章・シュヴァリエを受章。京都市交響楽団とは、2018年9月の第627回、2022年8月の第670回定期演奏会で共演している。



©CH Fotodesign Christiane

ピアノ ◆ アレクサンドラ・ドヴガン

アレクサンドラのピアノイズムの特徴は、驚くべき美しさと正確さを備えた音であり、技術的デモンストレーションの要素は少なく、純粋な表現力と創造的な想像力と結びついたものである。また彼女自身カリスマ的な存在であり、独特の個性を持っている。2007年音楽家の家庭に生まれ、4歳半からピアノを学び始めた。難関で知られるモスクワ音楽院附属の中央音楽学校に5歳で入学。現在、著名な教師であるミラ・マルチェンコに師事。2015年のメキシコのビヤエルモサ・コンクールをはじめ、2015年ウラル・プロコフィエフ国際コンクール、サフォノフ・ヤングピアニスト国際コンクール、全ロシア音楽タレントインターネット・コンクール、さらに2017年にはクライネフ国際ピアノコンクール、「アスタナ・ピアノ・パッション」国際ヤングピアニスト・コンクール、若い音楽家のための国際テレビコンクール「くろみ割り人形」などで入賞。2018年にはまだ10歳で第2回若いピアニストのための「グランド・ピアノ国際コンクール」でグランプリを獲得。2019年にはベルリンのフィルハーモニーとアムステルダムのコンセルトヘボウにリサイタル・デビュー。その後もウィーンのコンツェルトハウス、ベルリンのブルーゼ・ザール、パリのシャンゼリゼ劇場、リスボンのグルベンキアン、ハンブルクのリーダー・ハレ、東京の紀尾井ホール等、世界中の名だたるコンサートホールの舞台に立っている。また、オーケストラとの共演も多く、トレヴァー・ピノック指揮ザルトブルク・モーツァルテウム管弦楽団、大野和士指揮バルセロナ交響楽団、トン・コーブマン指揮ストックホルム・フィル、グスターボ・ドゥダメル指揮マーラー室内管弦楽団、パーヴォ・ヤルヴィ指揮チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団等と共演。さらにザルトブルク、ルール、ソルスペルク、ラインガウ、ラ・ロック・ダンテロン、ラインガウ、グシュタード、ヴェルピエなどの音楽祭にも登場している。



©Irina Schymchak

合唱 ◆ 京響コーラス

(合唱指揮：浅井 隆仁)

1995年秋、京都コンサートホールが完成した当時の京響音楽監督&常任指揮者・井上道義の提唱で「京響第九合唱団」として結成。その後「京響市民合唱団」と改名し、2012年からはさらに音楽的な高みをめざして、京響の自主演奏会を軸にオーケストラ合唱作品に取り組む「京響コーラス」と名称を変更、創立者の井上道義を創立カペルマイスター、当時の京響常任指揮者広上淳一をスーパーヴァイザーに迎えて新たにスタートした。現在、約130名の団員で構成されており、毎週月曜日の夜を中心に京響練習場・京都市内文化会館等で練習を行っている。

City of Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、第12代常任指揮者の広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞。同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収め、2016年は創立60周年記念国内ツアーを開催し、平成28年度地域文化功労者表彰を受ける。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞及び「第29回ミュージック・ベンクラブ音楽賞」クラシック部門「現代音楽部門賞」を受賞。2020年4月、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一(2022年3月まで)、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッド(2023年3月まで)が就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任。さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリントが就任。京響は今、新たなステージへ向けて、名実ともに文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。



©井上写真事務所 井上真和